

産建教育常任委員会 議事録

日時：令和8年1月30日（金）
10：00～11：55
場所：第1・2委員会室

出席者

委員名 委員長 遠藤 龍之 副委員長 丸子 直樹
委員 高橋 眞理子 委員 品堀 栄洋 委員 岩佐 孝子
【遅参：遠藤委員長、岩佐委員】

会議次第

1 開会宣告 【委員長】

2 連絡

※ SideBooksの04_常任委員会 産建教育常任委員会フォルダに開催通知及び次第を格納しております。チームスにも併せて送信します。

3 事件

(1) 農業経営の現状と担い手確保対策について【産業観光課・農業委員会事務局】
[説明員：産業観光課長、農林水産班長、農業委員会事務局長、総務班長]

【副委員長】説明について質疑はあるか。

【岩佐委員】地域おこし協力隊2年目ということで、今後とも続けていけるような環境にあるのか。

【産観課長】担当課として現場確認や、各種補助事業を活用いただいているが果樹の生育の状況を見ている状況。出荷までの支援を継続したい。観光果樹園としての具体化も規模等を見ながら支援したい。

【岩佐委員】見ていると生育などはまだだと思う。3年という任期では形になるまで難しいのでは。リンゴだけでは厳しいとみているが、担当課としてはどうか。

【産観課長】リンゴのほかにはスモモやブルーベリーを育てている。しかし、2人での経営ということで成り立つ規模感というところで今後相談に乗りたい。経営センターなどつなげていきたい。

【岩佐委員】地域の人と協力しているようなので続けていただきたい。仙台市内のフルーツパークでの従業員からの転身ということで、そこをイメージしていると思われるがどんなことを思い描いているのか。

【農水班長】来年度は小規模でのフルーツパーク開園を目指していると聞いている。

【岩佐委員】いちご農家については法人化が目立っているが、他の品目での法人化はあるのか。

【農水班長】稲作などの法人化の相談はない。

- 【岩佐委員】 現在法人化しているところはないのか。
- 【農水班長】 新規ではない。
- 【産観課長】 町内では3件程度法人化していると記憶している。
- 【岩佐委員】 高齢化が進んでいる状況である。法人化がされると若年層の参入もあるのではないかと考える。
- 【副委員長】 ②年代別割合。10年で減少が大きいのが、経営移行がうまくいっていないように見える。法人化できればそういう動きも可能と思われるが、現状は。
- 【産観課長】 後継者については水稻についてそういった話は伺う。いちごの参入希望は外部からも聞くことはあるが、初期費用の関係でハードルは高い。
- 【副委員長】 実際の割合として後継者のいる営農者はどの程度なのか。
- 【産観課長】 具体の数字としては統計を取っていない。地域単位で稲作をしてもらおうという動きもあるようだ。
- 【品堀委員】 丘通りの営農について申し込みがあったのか。水田を畑にすると補助金が出る制度だったと記憶しているが。水が出ない地域やポンプ更新が高額になりしていない声を聞く。
- 【産観課長】 実際の数字は持ち合わせていないが、数件申請されたと記憶している。
- 【品堀委員】 丘通りの水田の現状もひどいところも一部あるので、そういった補助は今後も活用できないのか。
- 【産観課長】 国、県でそういった制度はあると聞いているが、町として具体的に動きはない。
- 【品堀委員】 中山間地が今後問題になると思われる。支援を拡充していただければ。
- 【高橋委員】 農業次世代補助R6実績7件1150万円の具体の例は。
- 【農水班長】 ハウス新設や、機械購入費に充てられている。
- 【高橋委員】 営農を開始する新規就農者に対する補助とみているが、認定新規就農者はその内何件か。
- 【農水班長】 7件すべてが認定新規就農者である。
- 【高橋委員】 補助事業はこれですべてか。
- 【農水班長】 町でしている補助はすべてである。
- 【産観課長】 国、県で使える組み合わせが複数あるが、その中で利用可能で有利な補助を活用している。
- 【高橋委員】 昨年の米不足を受けて稲作新規就農者はいるのか。
- 【産観課長】 今年度はない。事業継承は数件
- 【高橋委員】 法人3団体は先ほど聞いたが、法人として会社体系になっているのか
- 【産観課長】 その通り
- 【高橋委員】 法人が増えれば全体の規模が大きくなるとみているが、そういった誘致や動きはあるのか。
- 【産観課長】 地域での営農の動きもあるので、町の具体の誘致はしていない。
- 【高橋委員】 丘通りの耕作放棄地は多い状況か。
- 【産観課長】 その通り、地形や水源の問題もある。
- 【高橋委員】 そうなると転作なども選択肢として取れると思う。高市総理が力を入れる旨発言していたので期待したい。国の動きに対応できるように体制を取ることを期待したい。

- 【産観課長】補助や交付金等活用できるものはしたい。
- 【品堀委員】畑で作る稲の話聞いたことがあるが、情報はあるか。
- 【産観課長】正確に把握していないが、話は聞いたことがある。
- 【品堀委員】継続的にできているのであれば、その情報を共有しては。
- 【岩佐委員】稲作の直まきの話は町内でも聞いたことがあるが、収穫量に課題があったようだ。町内の土木業者なども農業参入の動きがあるようだ。大変ありがたい動きであり他業種の参入はあるのか。
- 【産観課長】聞いているのは真庭地区の1件のみ。
- 【岩佐委員】スーパーなどの出荷契約を結ぶと安定すると思われるが、そういった事例は。
- 【産観課長】商工会などの動きとしては把握しているが、町としてはない。
- 【岩佐委員】いちごなど仙台市や北海道などの販路開拓も必要では。農協なども統合など大規模化しているので、小さい単位での動きを取ることは必要
- 【産観課長】今後想定したい。
- 【高橋委員】食糧難の時代に有利な条件の町だと思う。町でもそういったアピールを。近年温暖化により栽培の品種が変化していると思われる。
- 【副委員長】町が営農者にできることは多くないと農家としても感じている。若年層ができるかどうかについては、それで生活できるかどうかにかかっていると考える。最近も芸能人が本町についてテレビ放送後売り上げが伸びた。町のアピールとして栽培から販路までの道筋を作ることも取れるのではないか。産業観光課として統合された強みを生かしてほしい。
- 【品堀委員】農家の生活が成り立つ最低限の収入はどの程度なのか。以前米は8町歩あればと聞くが。
- 【産観課長】認定農家制度の中で果樹、水稻複合経営で400万円という水準モデルがある。
- 【引地班長】稲作農家で子育てしていくには20町歩という話は聞いている。
- 【岩佐委員】旧坂中でビール工場が稼働しているが、そこで出た廃棄物の活用などはたい肥などに使えないか。
- 【産観課長】麦芽搾りかすなどは今後出てくると思われる、今後調整したい。沿岸部養豚場でのたい肥の活用方法も検討している。飼料米は稲わらが不足しているとも聞くので今後調整したい。
- 【岩佐委員】そういった状況もあるのであれば町としてつなげてもらいたい。有機肥料の栽培は注目されているので、町のPRとしても有効だと思う。地元のを活用する研究をしてほしい。
- 【産観課長】今後検討したい。
- 【委員長】担い手確保について町外の確保策が主だと思うが、町内の後継者確保も重要である。そのあたりの対策対応は。
- 【産観課長】いちごについては後継者は見つかっているが、稲作については確保が難航している状況。国県の補助などを活用したい。
- 【委員長】全国的な問題であり、継続していただきたい。採算性という点も重要であり、後継者がいないことにも直結していると考えている。補助を活用しながらそれを確保するのが必要であるが稲作は「時給10円」と言われてい

る。それでは確保は難しい。

認定新規就農者の制度について基準や対象者が不明確であり、対象者は。

【産観課長】 18～45歳が国の補助を受けられる一つの基準。多様な人材という点ではそれ以外の動きもある。

【委員長】 近所でも町外からの就農者がいるようだ。今後細部確認したい。

【岩佐委員】 町としての営農戦略や栽培ゾーンのようなものはあるのか。

【産観課長】 栽培種ごとのゾーニングはしていない。

【岩佐委員】 品種のブランディングも重要である。ミガキイチゴなど全国のリピーターも多い。

【高橋委員】 ゾーニングに関連して、芽室町では町のマップ自体がゾーニングされていてとても魅力的であった。この長方形の町をどのように活用できるかが今後重要。

【産観課長】 今後検討したい。

【委員長】 以上で質疑を終了する。

(11:45 担当課退室)

4 その他

○次回開催(予定) 2月9日(月) 午前10時00分～

【所管事務調査まとめ】

5 閉会宣告 【委員長】